

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 都市共生デザイン専攻 都市災害管理学コース (修士)

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>都市共生デザイン専攻都市災害管理学コース (修士プログラム) では、地震や台風・竜巻などによる都市災害に対する管理手法の開発と実用化について、総合的理解を深め、建築物から都市に至る幅広い知識・教養と災害管理学の専門性を兼ね備えた研究者および高度職業人を育成するための教育と研究指導を行う。</p> <p>本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 幅広い教養と見識, および都市災害管理学についての幅広い知識・技術と専門性の基礎を身に付けている。・ 都市災害管理学に関する課題を自ら発見し, 客観的な分析と独自の構想を通じて, その解決を提案し, 実現に向けた協調性とリーダーシップを発揮できる。・ 都市災害管理学の観点から, 地域社会, 国際社会が要請する新たな建築・都市を自ら構想し, 創造することができる。 <p>上記の目的を達成し, 本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して, 履修した科目および研究テーマに応じて, 修士 (人間環境学) または修士 (工学) の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none">・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構 日本技術者教育認定基準「個別基準 (2019 年度～)」, 「認定基準」の解説 (建築系学士修士課程 2019 年度～)・ (参考) 日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」 (2014 年 3 月 19 日)
学修目標	<p>A. (主体的な学び・協働)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自ら課題に取り組む積極性と継続的に自己研鑽を続ける能力を備える。・ 他者との協力を進めながら問題解決へ努力する協調性と, チームを統括するリーダーシップを備える。・ 表現能力とコミュニケーション能力を鍛え, 広く世界と交流する視点を養う。 <p>B. (知識・理解)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地震や台風などによる自然災害の誘因となる自然現象と都市や建造物における自然災害の発災メカニズムを理解し, 説明できる。・ 地震や台風などによる自然災害における諸問題に, 各種構造物や地盤の調査や実測, 実験を中心とした工学的発想と情報科学に基

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>づいて対処し、都市・建築における災害を予測する手法を理解し、説明できる。</p> <p>C. (技能)</p> <p>C-1. (適用・分析)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 防災・減災から復旧・復興に至る都市災害管理学の理念に基づいて、自然条件や社会条件などの災害情報を多角的に分析できる。・ 地震や台風などによる都市・建築の防災・減災および危機管理の手法や都市の基本的安全システムの構築に関する手法について、状況に則して適切な提案ができる。・ 都市災害管理学を包括する自然科学と工学及び人文・社会科学などの知識を総合的に把握し、問題解決にあたって様々なアプローチを用いて、論理的に思考できる。・ 人間と科学・社会との関わりの問題を理解する能力を身につけ、新たな課題発見につなげることができる。 <p>C-2. (評価・創造)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 都市災害管理学に関わる課題を自ら発見し、客観的な分析と独自の構想を通じてその解決を提案できる。・ 都市災害管理学に関する専門的知識と技能に基づき研究を遂行する能力、ならびに実社会において問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示・実行することができる。 <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 都市災害管理学に携わる専門家としての自覚と誇りを持ち、専門家に求められる倫理観を身につける。・ 地域社会，国際社会が要請する新たな都市を，高い教養と見識に基づいて自ら構想・創造するとともに，都市災害管理学の視点からの社会貢献と都市災害管理学の発展へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。・
--	---

2. 新カリキュラム・ポリシー

地震や台風・竜巻などによる都市災害に対する管理手法の開発と実用化について、総合的理解を深め、建築物から都市に至る幅広い知識・教養と災害管理学の専門性を兼ね備えた研究者および高度職業人の育成を目指す都市共生デザイン専攻都市災害管理学コース（修士プログラム）では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

【コースワーク】

都市共生デザイン専攻都市災害管理学コース（修士プログラム）では、①都市災害管理学についての幅広い知識・技術と専門性の獲得、②都市災害管理学に関する課題を自ら発見する能力、③客観的な分析と独自の構想を通じた課題解決策の提案力、④提案の実現に向けた協調性とリーダーシップ、⑤都市災害管理学の観点から新たな建築・都市を自ら構想し、創造する能力を養成する。本コースにおける教育課程は、特別研究、コース独自の特論科目とその演習、および各種共通科目からなる。上記の①～⑤を実現する教育の中心は必修科目である「特別研究」であり、研究を通して課題発見から解決策の提案・実践までを包有する。また、主に個別の専門性の向上を目指した特論科目では上記の①～③、その特論科目で得た知識や技能を具体的な課題に対して適用し、実践的な課題解決を行う演習科目では②、③の養成を行う。さらに、アーバンデザイン学コースとの共通授業である「都市共生デザインセミナー」や空間システム専攻との共通授業である「都市建築コロキウム」、学府共通授業である「人間環境学」等においては、様々な分野の学生と協働して課題解決に取り組むことで学際的な視点も取り入れながら②～⑤を総合的に養成する。加えて、「建築インターンシップ」では、実際の現場における実践的な課題解決の取り組みを行うことで、①～⑤を包括する実践力の育成を図る。

本プログラムの修了要件としては、「特別研究」のみを必修として位置づけ、その他の授業科目については他専攻科目も含めて全て選択とし、学生各自の目標に応じて多分野の科目を幅広く総合的に学ぶ履修計画から自身の専門性を重視して特定分野を深く学ぶ履修計画まで多岐にわたって自由に選択できるようにしている。

さらに、もう一つの教育プログラムである持続都市建築システムプログラムが整備されており、建築・都市の持続化に関わる課題を扱ったより幅広い授業科目の履修も可能である。また、2017年より開始した「大学の世界展開力強化事業（キャンパス・アジア）」において、本学と同済大学（中国）、釜山大学（韓国）の3大学がコンソーシアムを形成しダブルディグリープログラムを構築している。

【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導を目指している。修士課程の学生については1名の主指導教員と1名の副指導教員で研究指導に当たる。この他、入学当初にはオリエンテーションを行い、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進に必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

【学位論文審査体制】

学位論文の審査では、主指導教員・副指導教員を含む複数の教員によって、修士論

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

文を審査し、修士論文発表会において公開質疑を行った上で、可否を判定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、比較的専門に近い教員によって構成される「構造系教育会議」において、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

修士論文の内容、各授業の成績評価、および各授業の最後に行われる受講生へのアンケート調査に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。

3. 新アドミッション・ポリシー

<p>求める学生像</p>	<p>（全学共通）国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>（部局固有）都市共生デザイン専攻都市災害管理学コース（修士プログラム）では、学士課程で培った以下のような資質を備えた学生を求めている。ただし、全ての資質をバランス良く備えていることだけでなく、突出した資質や能力を評価することも重要だと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる基礎的な専門知識や技能 ② 自ら課題を発見しようとする探究心とその課題の背景を深く洞察する姿勢 ③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出そうとする意欲 ④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力 ⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>夏季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では、個別学力試験（外国語試験を含む）によって「求める学生像」の①に掲げられた基礎的な専門知識や技能、ならびに②～④の資質、さらに口述試験によ</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

って①にある幅広い分野への関心, ならびに②～⑤の資質について総合的に評価する。

冬季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では, 個別学力試験(外国語試験のみ)によって④の語学力, 小論文および卒業論文又はその梗概によって, ①に掲げられた基礎的な専門知識や技能, ならびに②～④に資質を評価する。さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答よって, ①にある幅広い分野の関心, ならびに②～⑤の資質について評価する。ただし, 冬季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では, ①～⑤の全ての資質をバランス良く備えていることよりも, 突出した資質や能力を評価することに力点を置いている。

冬季に行われる外国人留学生特別選抜では, 個別学力試験(外国語・日本語試験を含む)によって①に掲げられた基礎的な専門知識や技能, ならびに②～④に資質を評価する。さらに口述試験によって, ①にある幅広い分野の関心, ならびに②～⑤の資質について総合的に評価する。

なお, 心理学領域の学生については, それぞれの選抜において, 上記の試験に加え, 別途提出される研究計画書も用いて①～⑤の資質について評価する。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 都市共生デザイン専攻（博士）

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>都市共生デザイン学専攻（博士プログラム）では、安全かつ快適な都市の形成に不可欠な、都市計画学・災害管理学・心理学・工学を学際的視点で横断する“都市共生デザイン学”の学理を理解し、多様な都市問題や自然災害に対する脆弱性の克服に取り組み、都市・建築の持続性の向上に寄与できる人材を育成するための教育と研究指導を行う。本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い教養と見識を持ち、都市共生デザイン学に関わる幅広い知識・技術と高度な専門性を身に付けている。 ・ 都市共生デザイン学に関する課題を自ら発見し、客観的な分析と独自の構想を通じてその解決手順と手法を構築し、ソリューション実現に向けた協調性とリーダーシップを発揮できる。 ・ 都市共生デザイン学の観点から、地域社会や国際社会が要請する新たな都市・建築を自ら構想し、創造することができる。 <p>上記の目的を達成し、本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して、履修した科目および研究テーマに応じて、博士（人間環境学）または博士（工学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構 日本技術者教育認定基準「個別基準（2019 年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019 年度～） ・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014 年 3 月 19 日）
学修目標	<p>A. （主体的な学び・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学際的な視点を持って、自ら進んで課題を発見し取り組む積極性と、自分のポテンシャルを高める新たな知識・技術を取り入れる進取性を有する。 ・ 問題解決のためにチーム内の協働を促し、リーダーシップをもってチームを統括することができる。 ・ 修得した表現能力とコミュニケーション能力を駆使して、広く世界と交流する。 <p>B. （知識・理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間と科学・社会の相互関係に関する問題について深く説明できる。 ・ アーバンデザイン学および都市災害管理学を中心とした都市共生デザイン学の各分野とこれらの分野を横断する課題を発見し、こ

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>れを解決するための理論と方法を総合的に理解し、説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 都市共生デザイン学に関する専門的能力のうち、自らが専攻し研究を遂行する分野に関する高度な専門的能力を、統合的に発揮することができる。 <p>C. (技能)</p> <p>C-1. (適用・分析)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 都市共生デザイン学を包括する自然科学と工学及び人文・社会科学に関する、専門分野の深い理解に基づき、学問固有の方法で思考できる。・ 都市共生デザイン学に関わる課題を自ら発見し、その問題点を明確し整理できる。 <p>C-2. (評価・創造)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 修得した都市共生デザイン学に関する専門能力を自身の研究遂行に生かし、自立した研究者として専門分野の発展に寄与できる。 <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 建築設計・都市設計、災害管理技術、環境心理、実践発達心理における高度な専門家としての自覚を持って高い倫理観を身に着ける。・ 実社会における問題の本質の精査、その解決方法の提示、実行を通して、都市共生デザイン学の成果を社会に還元するとともに、国際的視野の拡大に努め、フィールド活動に対する実践的意欲を持つ。・
--	--

2. 新カリキュラム・ポリシー

安全かつ快適な都市の形成に不可欠な、都市計画学・災害管理学・心理学・工学を学際的視点で横断する“都市共生デザイン学”の学理を理解し、多様な都市問題や自然災害に対する脆弱性の克服に取り組み、都市・建築の持続性の向上に寄与できる人材の育成を目指す都市共生デザイン学専攻（博士プログラム）では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

【コースワーク】

都市共生デザイン学専攻（博士プログラム）では、①都市共生デザイン学についての幅広い知識・技術と専門性の獲得、②都市共生デザイン学に関する課題を自ら発見する能力、③客観的な分析と独自の構想を通じた課題解決策の提案力、④提案の実現に

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

向けた協調性とリーダーシップ, ⑤都市共生デザイン学の観点から新たな建築・都市を自ら構想し, 創造する能力を養成する。本コースにおける教育課程は, 博士論文指導演習, コース独自の講究科目および学府共通科目からなる。上記の①～⑤を実現するために, 必修科目である「博士論文指導演習」とそれぞれの講究科目において, 研究活動を通して課題発見から解決策の提案・実践までを総合的に行う。また学府共通科目において, 多分野の専門に触れることで学際的教養の育成を図る。

【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり, 学生へのきめこまやかな指導を目指している。博士後期課程の学生については1名の主指導教員と2名の副指導教員で研究指導に当たる。この他, 入学当初にはオリエンテーションを行い, コースワークや教員陣容について解説することで, 学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し, 学生が自身の研究の推進に必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

【学位論文審査体制】

論文を提出された主指導教員は論文調査会(仮)を招集し, 論文の実質的予備調査を行い, 予備調査会の開催の歌碑について審議する。専攻の講師以上の教員で構成される予備調査会は, 主指導教員から提出された博士論文の内容の説明を受け, 当該論文が所定の水準にあるかどうかを審議する。その後, 論文が提出された学府長は, 学府教授会において論文の受理と論文調査会の設置について審議を行う。ここで, 論文調査会は主査1人を含む3人以上の論文調査委員を持って構成する。このとき, 主査及び1人以上の論文調査委員を学生の所属する専攻の教員のうちから選出し, 他の論文調査委員のうち1人以上を他の専攻の指導教員または他の学府, 他大学等の教員のうちから選定する。論文調査会は公平性と質の確保のため, 学内外から博士論文の内容に造詣が深い方々を招いた一般公開の論文公聴会を開催し, 論文提出者は, 博士論文について発表し, 出席者との質疑応答を行う。論文審査会は専攻の教授ならびに主査, 副査で構成され, 論文調査会から提出された調査報告書に基づいて可否を決定する。論文審査会がまとめた審査報告書を受けた学府長は, 学府教授会において, 論文審査会の審査報告書に基づいて学位授与の可否を審議し, 決定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み(内部質保証)】

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は以下の方針(アセスメント・プラン)に基づいて評価し, その評価結果に基づいて, 比較的専門に近い教員によって構成される検討会議等において, 授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで, 教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

博士論文の内容、各授業の成績評価に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>(全学共通) 国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>(部局固有) 都市共生デザイン専攻(博士プログラム)では、以下のような資質を備えた学生を求めている。ただし、全ての資質をバランス良く備えていることだけでなく、突出した資質や能力を評価することも重要だと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none">① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる専門知識や技能② 自ら課題を発見しようとする探究心とその課題の背景を深く洞察する能力③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出す能力④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲
入学者選抜方法との関係	<p>一般選抜および社会人特別選抜では、個別学力試験(外国語試験のみ)によって「求める学生像」の④の語学力、修士学位論文(写)と論文要旨、もしくは研究業績概要調書と研究計画書、さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答によって①～⑤の資質について総合的に評価する。</p>